

第58回日本臨床化学会年次学術集会
ランチョンセミナー12のご案内



オートタキシンと 肝線維化の結びつき

座長 矢富 裕 先生
(東京大学大学院医学系研究科 臨床病態検査医学 教授)

演者 池田 均 先生
(東京大学医学部附属病院検査部／住友商事診療所)

日時 2018年 8月26日(日) 12:00~12:50

会場 第2会場
(名古屋国際会議場 2号館2階 会議室222・223)

本ランチョンセミナーは整理券制です。
配布時間: 8月26日(日) 8:00~



共催：第58回日本臨床化学会年次学術集会

 東ソー株式会社
TOSOH

テーマ オートタキシンと肝線維化の結びつき

座長 矢富 裕 先生(東京大学大学院医学系研究科 臨床病態検査医学 教授)

演者 池田 均 先生(東京大学医学部附属病院検査部/住友商事診療所)

要旨 ウイルスやアルコールなど原因の如何に関わらず、慢性肝障害の最終病像は肝硬変症であり、食道静脈瘤や腹水を合併し、高頻度に肝癌が発生するため临床上、大きな問題となっている。この肝硬変症の主病態は線維化であり、その診断および治療が重要であることは論を待たない。肝線維化については、肝生検による組織学的診断が golden standard であるが、侵襲性の高さが大きな問題となっている。また、最近、超音波の利用により肝臓の硬さを測定し、線維化を推定するとの方法が用いられ、一定の評価を得ているが、肝硬度測定機器の普及は十分ではなく、どこでも簡単に行える状況にはない。このため、血液マーカーによる診断が模索されてきたが、既知の肝線維化マーカーであるヒアルロン酸やIV型コラーゲンは、疾患特異性の点で問題が多い。このような状況下、我々は、脂質メディエーターの産生酵素であるオートタキシン (autotaxin) について、その血中レベルが肝線維化と強く相関することを見出した。この知見に基づいて、肝線維化マーカーとしての臨床応用を目指し、現時点で、その測定試薬は臨床診断薬として承認され、近々の保険収載が期待されている。本セミナーでは、新たな肝線維化マーカーとしてのオートタキシンの発見の経緯について紹介する。



東ソー株式会社
バイオサイエンス事業部

東京本社 ☎(03)5427-5181
名古屋支店 ☎(052)211-5730
仙台支店 ☎(022)266-2341
バイオサイエンス事業部ホームページ

大阪支店 ☎(06)6209-1948
福岡支店 ☎(092)781-0481

<http://www.tosoh.co.jp/science/>